

あだたら



(バヌアツ共和国にて
体育指導をする岡田さん)



(山形県米沢市で開かれた
NPO法人読書普及協会チーム山形主催の健康講座)

特集
JICAボランティア経験で
地域を元気に

日本も元気にする JICA ボランティア

2008年やきとりじいさんで大ブレイクした「なりた
いカラダ」研究家・岡田麻紀さんは、実は、元青年海外
協力隊でした。

平成13年度第1次隊として、2001年から2003年までバヌア
ツ共和国に体育の職種で派遣されていた岡田さん。福島県郡
山市に生まれ、現在は桜の聖母短期大学生生活科学科専任講師、
桜の聖母短期大学生涯学習センター健康講座講師です。



「やきとりじいさんの最大のポイン
トは歌詞を聞きながら体操すること
です。心も同時にリフレッシュしな
がら、楽しく体操してくださいね」
(岡田麻紀ブログより)

2009年5月にダイヤモンド社から
▼DVD付の本が発売 (1,890円)



《福島から全国に発信》

2008年5月に考案した「やきとりじいさん体操」はYou Tubeのアクセス数
が54万件を突破し、「You Tube Video Awards2008」(ハウツー/科学と技術
部門)に輝きました。テレビやラジオ番組にも多数出演しています。

現在、座ったままで体操できるパジャマから体操という新バージョンを考
案し、実践しています。

《福島県で初受賞！》

人間力大賞2009において、岡田麻紀さんが日本青年会議所会頭特別賞を
受賞しました。

「人間力大賞」とは、環境、国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ、
その他の分野で積極果敢な活動・挑戦を続けている人間力あふれる若者を発
掘し、さらなる活躍を期待して国民全体で応援する、青年版国民栄誉賞です。

岡田さんを推薦した、社団法人福島青年会議所の方にお話を伺いました。



▲作田理事長(左)と岡田麻紀さん(中央)
人間力大賞受賞式にて

『2000年度の「焼き鳥のまち・福島」事業がきっかけとなり、その後有志者によ
る「福島焼き鳥党」が結成され、2007年には全国初の焼き鳥のまちを自称する各県
のお店が一同に会した「やきとりリンピックIN福島」が開催されました。そのときの
イメージソングに振り付けを行ったのが始まりです。』

この賞をきっかけに、さらに多くの市民に広がればと、福島青年会議所理事長の
作田謙太郎さんが話してくださいました。
(取材日7月16日)

《地域に広がる体操の輪》

岡田さんは小中学校や地域の公民館、病院、高齢者施設、イベントなど、
積極的に地域で講演会や体操指導を行っています。また福島民友新聞に、コ
ラム「笑顔の花束」を連載しています。(毎週火曜日の「くらしプラス」欄)

《体操考案につながるバヌアツでの経験とは》

バヌアツでの普段の生活や、離島の村での滞在を通して、便利な物を所有
しなくとも、自分のカラダが最大の所有物であり、感謝することに気づい
たという岡田さん。バヌアツの人々のきらきらする笑顔に何よりの元気をも
らったといいます。

カラダを動かす体操、そこに「やきとりじいさん」というユニークな歌詞
と耳に残るフレーズの歌があったからこそ、笑顔で体操が続けられるこの「や
きとりじいさん体操」が生まれたのです。

♪笑顔でハッピーな体操、だから続ける、だから楽しい♪

笑顔と運動で、どの年代の人でも楽しくできるやきとりじいさん体操は、
「体の健康」と「心の健康」を大事にする岡田さんのメッセージが込められ
ています。



▲第13回国際交流フェスティバルでの会場の様子



▲バヌアツ共和国の村にて

岡田麻紀さんの公式ホームページはこちら：<http://okadamaki.iinaa.net/>



体操で地域を元気に!

平成13年第1次隊 バヌアツ・体育
岡田 麻紀 (福島市在住)



「なんだか、とてもあたたかい」

そんな気持ちを、私は何度バヌアツで味わったことでしょう。それは、高価なプレゼントをもらったからでもなく、特別な出来事があったから、というわけでもなく、なにげない日常の節々から感じられることでした。

バヌアツの人たちと一緒にいると、とにかく心の中が温められることが多かったです。どんな時でも太陽のような笑顔で私に話しかけてくれました。私が困っていることがあると、いつでも優しく手を差し伸べてくれました。しかも、それが当然であるかのようにです。また、休日になると、私が配属されてい

た中学校の生徒が、誰かしら必ず我が家にやってきて、炊事、洗濯を手伝ってくれました。時には海でとれた魚をそのまま持ってきてくれたこともありました。

協力隊でバヌアツに派遣されるまで、一人暮らしをしていた東京ではあまり感じたことがないようなぬく

もりでした。バヌアツの人々と接していると、ありのままの自分でいいと言われているような気がしました。そして、失敗や間違いをしても、「大丈夫!」と笑い飛ばす心の広さを教わりました。

そんなバヌアツで学んだことを、私は「やきとりじいさん体操」という形で表現しました。健康増進のための体操ですが、この体操で心から一番伝えたいことは、「笑顔」の素晴らしさ、大切さなのです。この体操を通して、一人でも多くの方が笑顔で明るく健康になりますように……。



岡田麻紀さんに会いに行こう! 体操で元気になろう!



★10月18日(日)

第9回 いわき・ふくしま地球市民フェスティバル
会場: アクアマリンパーク、小名浜さんかく倉庫

岡田麻紀さんによる協力隊体験談と、やきとりじいさん体操をおこないます。

ほかにも、国際交流・国際協力・国際支援に関わる団体のお店やステージ発表があります。

ぜひ、お誘い合わせの上、ご来場ください。

ユニークな社会還元の形として、JICA 各種広報誌で紹介



「ボランティア経験を日本で発信する」「日本を元気にする協力隊経験者たち」として、JICAボランティア経験後の地域への社会還元活動事例として紹介されています。

JICA ボランティア募集説明会において、強力な応援サポーターに



▲福島市コラッセふくしまでの募集説明会の様子

今年春募集のJICAボランティア募集説明会では、バヌアツの体験談を披露したあとに、やきとりじいさん体操を実践。親子連れからお年寄りまで、歌に合わせて、体を動かしました。そのとき会場に駆けつけた参集者の一人は、「今までやきとりじいさんの岡田さんは知っていたけど、バヌアツの話を知るの初めて。体操の背景を知ることができ、とても興味深かった」と話してくれました。

会津も元気にする JICA ボランティア ～現職参加で社員も会社も地域も元気に！～

JICAでは、青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、シニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティアに参加しやすい環境をつくるため、官公庁や企業などの所属先に身分を残したまま参加する「現職参加」を促進しています。

今回は、福島県南会津郡南会津町からレポートします。

株式会社 芳賀沼製作 木の家—製材・加工からの家づくり

南会津の山間にあるこの製作会社には、設計を担当する株式会社「はりゅうウッドスタジオ」が隣接されています。こちらで一級建築士として活躍されている加藤淳さんは、モンゴルへ青年海外協力隊員として、建築の職種で派遣されていました（平成17年度第3次隊）。派遣されたのは就職してから7年後。理由をお聞きすると、「さらに建築の勉強を積みたいと思った」からだそうです。社長である芳賀沼養一さんに当時の心境をお聞きしました。「インドや中国、モンゴルなど経済発展の真っ只中にある国々から、日本も学ぶことがたくさんある。時代が進んでいく中で、2年間の経験は、人材育成の先行投資であると考えました」との心強いお言葉。さらに経営に関しては、「加藤さんがいない間の仕事を他のスタッフに任せ、そのための引継ぎの時間も設けました」という工夫をされたことをお聞きしました。



▲暖かみのある素敵なログハウスの本社



▶ 300HOUSEのモデルルーム。中は広々としています。



▲取材に応じてくださった加藤淳さん（左）と社長の芳賀沼養一さん（右）

芳賀沼さんに快く送り出された加藤さんは、現地の大学で近代建築史等を教え、モンゴルの建築を学んで帰ってきました。南会津町という福島県の中でも関東圏に近い立地と広大な森林を活かし、都市と田舎をつなぐ何かを建築や地元の素材を使って生み出すことを考えていた芳賀沼さんにヒントを与えたのが、加藤さんがモンゴルで見てきたゲル（モン

ゴルの伝統的な移動住居）でした。ゲルの構造をモデルにして現在開発中なのが「300HOUSE」と呼ばれる土地+建物の10坪ハウスです。「地元針生の土地を借り、家を所有することで住民との交流も生まれる。都市と田舎をつなぐ新しい仕組みにしたい」と大きな期待を話してくださいました。（取材日7月22日）

株式会社芳賀沼製作 :<http://www.haganuma.co.jp/> 株式会社はりゅうウッドスタジオ :<http://www.haryu.jp/>

社員が国際協力に参加する会社をJICAは応援します

民間企業にお勤めの方

民間企業・団体の中にも、JICAボランティアへの現職参加を認めるところが増えてきました。現職参加の措置を講じている企業・団体には、以下の4つのケースがあります。

- 1 ボランティア参加のための労使協約・覚書を締結している企業
- 2 ボランティア参加のための社内規定を制定している企業・団体
- 3 ボランティア休職制度を有する企業・団体
- 4 休職規定を運用している企業・団体

現職教員特別参加制度（協力隊のみ対象）

国公立学校の教員が現職のまま青年海外協力隊へ参加する制度で、毎年春に、各都道府県・政令市の教育委員会を通じて募集します。文部科学省による推薦制度を経て、ご応募いただけます。

地方公務員の方

各地方公共団体での条例整備が進んでおり、条例が整備されている地方公共団体の地方公務員は、「派遣職員」としてJICAボランティアに現職参加することができます。各地方自治体が定める派遣法条例または自己啓発休業条例が適用されて、JICAボランティアに現職参加することができます。

国家公務員の方

一般職の国家公務員は、派遣法の適用で「派遣職員」としての身分扱いを受けることができます。

所属先補てん制度

◎人件費補てん

現職参加するJICAボランティアの所属先に対して、JICAが人件費を補てんする制度です。

◎諸経費補てん

参加した社員が休職中も企業として支払いが必要な経費（主として一般管理経費）を補てんする制度です。

◎自営者補てん制度

自家営業主（自営者）を対象に、自営者の従前の所得（所得税確定申告額による）を基礎にして補てん金を毎月支給する制度です。

現職参加の詳細はこちら：<http://www.jica.go.jp/activities/jocv/application/require/worker.html>

平成21年度 開発教育指導者研修会 実施報告

開発教育に取り組む先生方を JICA は応援します



▲北海道教育大学札幌校からお招きした大津和子先生



当日の主なプログラム

☆開発教育実践事例の紹介

実際の教育現場で開発教育を実践している2人の先生からお話を聞きました。

☆事例紹介を受けて大津先生からアドバイス

1人ずつ、事例をもとに参加者から意見を聞きだし、質疑応答をしました。それぞれの手法を理解しました。

☆開発教育ワークショップ

ここではグループになり、カードを使ったゲームを実施しました。

☆開発教育とは何か

国際理解教育と開発教育の違いなど、基本的な言葉の定義や成り立ち、関わりを学びました。

☆福島県内の開発教育実践団体、関連団体の紹介

福島県教育委員会や福島県国際交流協会、グローバル教育研究会ふくしまなどの代表者が活動を紹介しました。

☆今後のさらなる連携に向けて

参加者同士が互いに交流を深め、よりよいネットワークを作る良い機会となりました。

参加者の声（会場でのインタビューより）

- ・ 贅沢すぎるほどの内容で、目からうろこでした。（ふくしま青年海外協力隊の会会員）
- ・ 自分から来ると意識がとても大切だと思いました。来て本当によかったです。（伊達市立松陽中学校教諭）
- ・ 参加者から刺激を受けました。（グローバル教育研究会ふくしま会員）

- ・ 大津先生の本を読んでいたので知識はあったが、実際に聞くと丁寧な解説で大変勉強になりました。（富岡高校教諭）
- ・ ちょっとしたことからはじめられると自信につながり、現場で活かす参考になりました。（河沼郡柳津町立柳津中学校教諭）
- ・ 実践者の事例紹介は、身近でこんなに工夫していると、ヒントをもらい、また励まされました。（富岡養護学校教諭）

事例紹介をしてくださった先生の一人、郡山市立第三中学校の菊地先生が、興味深いお話を聞かせてくれました。

●開発教育の語源について De+Velop

「開発教育」は英語では“Development Education”と言います。日本語では「開発」と訳されているので「途上国への経済開発」というようなイメージを持ってしまい、初めは抵抗を感じていました。しかし開発教育の「開発」は、「知り、考え、行動する」といった学習過程のプロセスを大切にする「開発」であり、人間そのものの成長を示すものだと知った時、その考えは変わりました。英語における“Develop”は成長する、発展させるといった意味で語源は“De+Velop”（包みを開ける）です。イメージとしては封印されていたものの封を開け、その中にあるそれぞれの能力や気づきを 発展させていくという奥深い意味の言葉です。それぞれの封を開けていくプロセスこそが開発教育なんですね。こういうイメージで考えると開発教育もぐっとわかりやすくなると思います。

国際理解教育とは・・・

人権の尊重を基盤として、現代世界の基本的な特質である**文化的多様性**および**相互依存性**への認識を深めるとともに、異なる文化に対する**寛容な態度**と、地域・国家・地域社会の**一員**としての**自覚**をもって、地球的課題の解決に向けてさまざまなレベルで社会に**参加**し、**他者と協力**しようとする意思を有する人間の育成をめざすもの。同時に、情報化社会のなかでの確かな判断をし、異なる文化をもつ他者とも**コミュニケーション**を行う技能を有する人間を育成する。（大津和子 北海道教育大学 国際理解教育の目標と学習領域より）

異文化の眼 [第4回]



～二本松の印象～

中国語 語学講師 レン・シウジュアン

私の生まれ故郷は中国の瀋陽です。瀋陽は中国東北地域の南部に位置し、人口が約506万人の都市です。私がかつて住んでいた大連、ロンドン、東京はいずれも人口が多い都市です。外国旅行もたくさんしました。でもその中でも、一番住みやすいところは二本松だと思います。

二本松は、人口が少なく、静かで時間がゆったりと流れています。二本松は空気がきれいで、とてもすがすがしい気持ちになります。二本松には豊かな色彩があり、春の緑、夏の赤、秋の黄金色、冬の銀世界、まるで美しい油絵に描かれているようです。

二本松での生活はとても便利です。市内には大きなスーパーがいくつか

あって、そこには、野菜、果物、肉、魚、ありとあらゆる食材が揃えられ、安くて新鮮なものばかりです。病気の時は、二本松市にある柊記念病院にいつもお世話になっています。最新設備はもとより、気さくで技術の高い先生とやさしい看護師さんにいつも親切にいただいています。歯が痛くなれば、近くに歯医者さんがあるから安心です。先生は私の知っている歯科医のなかで、もっともすばらしい先生です。そのほかにも、眼科、婦人科など近くにいる先生方のおかげで、健康を保っています。

二本松シルバー人材センターの会員として活躍されている方々も、とても印象深いです。我が家の庭と、障子紙が毎年彼らの手によって、まるで美容院でもいってきたかのように、素晴ら



しい変容ぶりをみせてくれます。

私と夫は二本松に魅せられ、いつも感心しています。10年前、早速行動に移し、家を購入しました。この大好きな土地を生涯の住処に決めました。

中華人民共和国 Data	
面積	約960万平方キロメートル (日本の約25倍)
人口	約13億人
首都	北京
言語	漢語(中国語)
通貨	人民元




JICAでは、アジア、アフリカ、中近東、中南米などの、途上国の開発課題に取り組む人材の能力向上をはかるために、開発途上国が推薦する技術研修員を受け入れています。福島県内では、西郷村と郡山市にある2つ機関に委託をして、技術研修コースを実施しています。(業務の所管はJICA東北支部)

郡山市にある株式会社メディサンは、医療機材管理・保守に関する研修を行っています。平成21年度中南米コースの研修員が、6月9日(火)に地元福島県の医療教育現場視察をするということで、同行取材をしてきました。(協力:福島県立医科大学看護学部)

研修員は、ボリビア、コスタリカ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、パラグアイ、ペルーの8カ国から来た9名です。



▲まずは自己紹介



▲学生に交ざって各国のプレゼンテーションを披露



▲学部内実習施設見学

研修員の声

- ・設備が違いすぎて、驚いた。
- ・とてもプロフェッショナルで感銘を受けた。
- ・日本人の学生と交流することができて、よかった。
- ・文化を受け入れることで、お互いに学ぶことができた。

学生の声

- ・最初は不安で、緊張したが、一緒にいろいろ調べるうちに楽しくなってきた。話ができてうれしかった。

担当した教授の声

- ・途上国に興味を持つきっかけとなってくれればうれしい。

株式会社メディサンは、国際関係分野における功績が評価され、平成21年度の外務大臣賞を受賞しました。

8月～10月の イベント情報

8月 2日(日)	JICA二本松オープンハウス (地球体験キャラバンスペシャル)
8月 3日(月)	教師海外研修 中国 (13日まで)
9月 10日(木)	JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009締め切り (当日消印有効) ←右下にポスター
9月 10日(木)	平成21年度第2次隊 派遣前訓練終了
9月中旬	JICAボランティア自治体表敬
9月 12日(土)～13日(日)	ユース国際協力ミーティング ←右下にポスター
10月 1日(木)	JICAボランティア秋募集開始 ←下に詳細あり
10月 8日(木)	平成21年度第3次隊 入所式 (予定)
10月 18日(日)	第9回いわき・ふくしま地球市民フェスティバル

JICA二本松 公開講座

JICA二本松では、JICAボランティア向けに様々な講座を実施しています。下記の講座では、一般の方々も無料で参加することができます。

開催日	時間	講座内容
8月 7日(金)	19:00～21:00	地球のステージ 講師：桑山 紀彦
8月17日(月)	15:10～17:00	環境と開発 講師：濱崎 竜英 (大阪産業大学 准教授)
8月21日(金)	15:10～17:00	イスラム教とは何か 講師：青山 弘之 (東京外国語大学)
8月31日(月)	15:10～17:00	ニッポンの知恵から学ぶ 講師：矢島 亮一 (NPO法人自然塾寺子屋 理事長)

※公開講座のお申し込みは、下記JICA二本松の募集・広報担当者宛にお問合せください。また詳しい情報は、ホームページにてご確認ください。

<http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/event/index.html#a0713-01>

新所長就任のお知らせ

JICA二本松 青年海外協力隊訓練所
所長 斉藤 祐巳



8代目の所長として、7月にJICA二本松に着任いたしました斉藤と申します。郡山出身ですが、オギャーと生まれたのは二本松にある母の実家です。インドネシア、タイ、そして沖縄への赴任を含め、人生で15回目の引越しになる今回は、38年ぶりのふるさとでした。関係者の皆様方からは暖かく迎えていただき、ふるさとのありがたみを感じているところです。読者の皆様とお会いする機会もありますので、その際は宜しくお願い申し上げます。

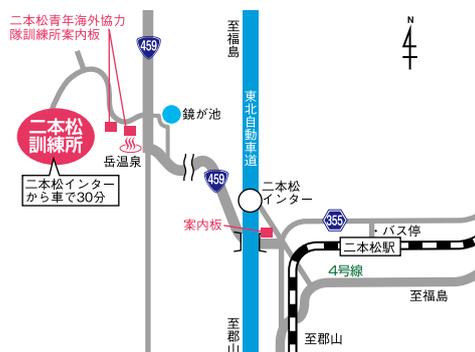
その思いを行動へ！ 参加者募集!!
ユース国際協力ミーティング'09
応募締切 2009年 9/4(木)

平成21年度 秋募集 説明会日程

青年海外協力隊 シニア海外ボランティア

開催地	開催日	時間	説明会場
福島	9月27日(日)	10:00	福島県文化センター
郡山	10月 3日(土)	14:00	ビッグアイ7階
福島	10月10日(土)	14:00	コラッセふくしま
郡山	10月24日(土)	14:00	ビッグアイ7階
いわき	10月25日(日)	14:00	いわきラブ6階
二本松	10月31日(土)	15:30	JICA二本松
会津若松	11月 1日(日)	13:00	会津アピオスペース

JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2009



JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail : jicanjv@jica.go.jp

〒964-8558

福島県二本松市永田字長坂4-2

TEL : 0243-24-3200

FAX : 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます...

URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

